

SUSTAINABLE FUTURE CRAFTS

Document Book
2023



京都伝統産業ミュージアム
Kyoto Museum of Crafts and Design



CITY OF
KYOTO



京都市伝統産業未来構築事業

SUSTAINABLE FUTURE CRAFTS

京都市では、世界に誇る京都の伝統産業を未来に継承・発展させ、持続可能な社会を構築していくため、新たに「京都市伝統産業未来構築事業」をスタートしました。

本事業では、伝統産業が、デジタルファブリケーションやデザイン、観光や福祉、農業など他分野と融合することにより、人とのづくりの新たな関係構築や、これからのライフスタイルを創造する先進的な取組に対してサポートを行っています。

2023年度は16のグループが多様な活動を行いました。

< CONTENTS >

Overseas Program

N's 1182	4
Weaving the future	6
京都工芸染匠協同組合	9
LINKED ARTISAN	12
ICW	15
TASTES OF KOGEI	18

New Approach

蘇隆窯	22
LLB	24
Beyond Urushi	26
西陣織工業組合	28
soin	30
チームギギガガ	32
雑貨小売店業界へ進出する京のお菓子開発チーム	34
KYOYUZEN COUTURE	36
京きもの生地愛好会	38
「勝ち叶う結びの房」製造チーム	40

Overseas Program



西陣織アパレルブランド N's 1182 和装業界のための OEM

N's 1182

有栖川織物有限公司 / N's 1182
代表：前田雄亮

概要 西陣織帯地は、生地幅約31cmであるため、制限がある中でものづくりになる。

N's 1182では、本来デメリットである生地幅をデザインの武器にして、小幅織物での製品開発を可能とし、西陣織の新たな販路にするべく、海外へ進出していく。日常で着用できる西陣織を、伝統産業の枠に留まらないモダンなデザインにすることで、世界での認知度を向上させる。

独自のOEMサービスにより小幅織物での生産体制を確立したことで、西陣織企業の新たな収益確保とブランド力の向上を目的とした、企画立案から販売までの販路開拓に必要なすべての工程を行うことが可能となった。



WEB



Instagram



__インタビュー：前田 雄亮 聞き手：事業コーディネーター

__ コロナ禍の自宅時間から生まれた服作り

元々、自分がイメージする「納得できる服」が世の中になく、という思いが強く、高校生の頃からよく古着をリメイクしてきていて、コロナ禍をきっかけに本格的にのめり込むようになりました。自分が欲しいと思う形の服を解体し、パーツごとに分ける。その型を方眼紙に沿って切れば理想の設計図ができる。それが解ってからは、形が好きなパンツを好きな生地と組み合わせて理想のパンツを作る、そんな作業をあの時はひたすら繰り返していました。

__ 西陣織を洋服の素材として使い始めたきっかけ

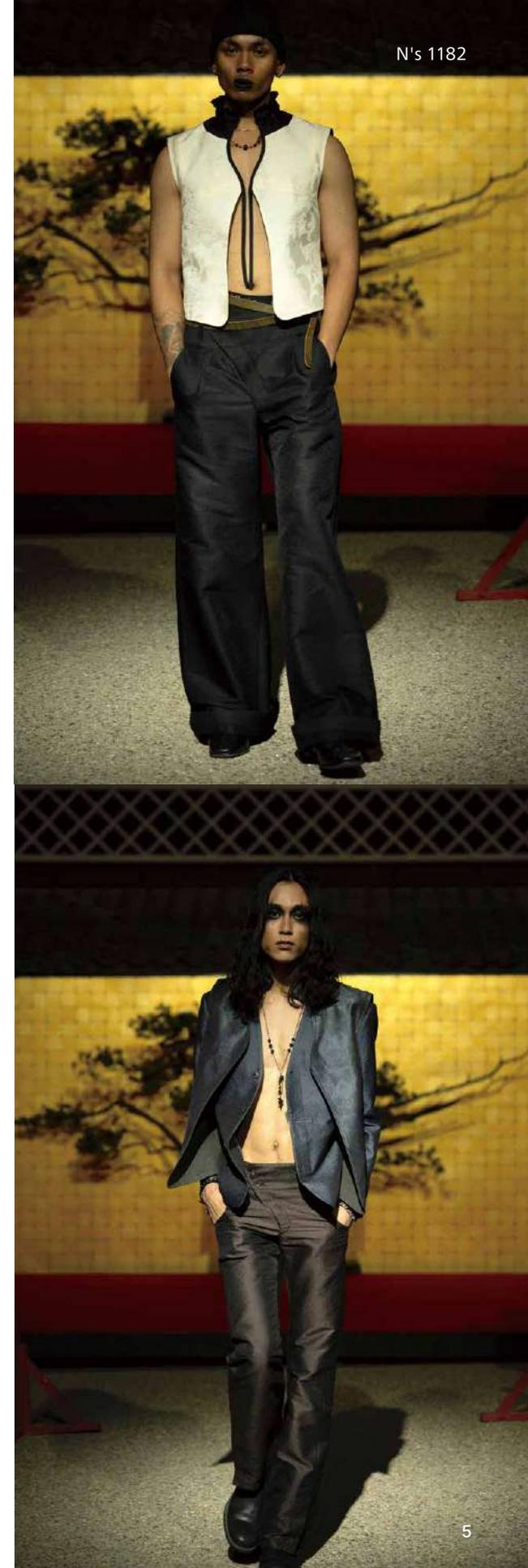
父が西陣織の帯を製造する会社をやっていて、変わった模様の生地がたくさんあったんです。絹100%だから質感も色も独特で。そんな特殊さから、何か新しいものが作れるんじゃないかとひらめきました。そういえば、着物の生地はシャツやドレスになったりしているのに、帯の生地が洋服になっているのは見たことがないのはなんでだろう、という疑問も生まれました。

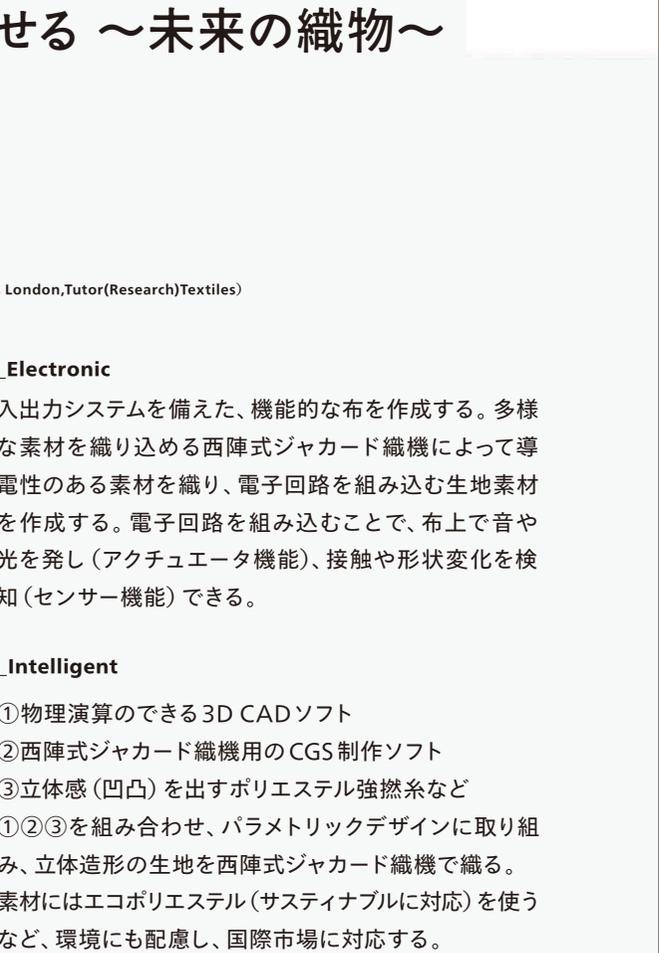
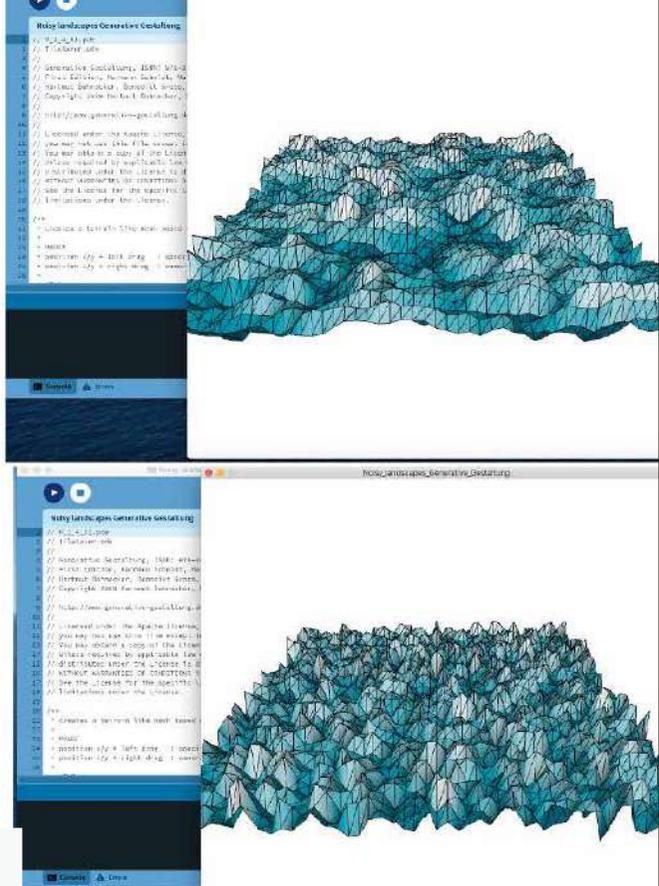
__ 幅31cmという制約から生まれるオリジナリティ

帯の生地は幅が31cmしかなく、自由に裁断可能な広幅の記事と比べるとデメリットがありますが、メリットも発見しました。たとえばコートの場合、通常の記事だと5～6パーツで作れるところを、僕たちの場合はどうしても12～13パーツになってしまう。でも、そうすることで関節部分にあえて可動域をつけたり、背中に膨らみをもたせられたりして、意外と良い形が生まれることがあるんです。そういう発見が僕は好きですね。逆に制約がなく何でも作れてしまったら、おもしろくないと思っていて、それがこの幅で挑戦していくモチベーションにもなっています。

__ 将来の展望

今後は、海外を中心にオフライン広告となるファッションショーを軸にして、ECでの販売を拡大させていこうとしています。その中で伝統産業である西陣織のみならず日本の物作りを若者視点で海外に発信することで、将来への継承ができればと考えています。





西陣織をサイエンスと融合して スマートテキスタイルに進化させる ～未来の織物～

Weaving the Future

森 栄彰 (株式会社もりさん)

上田 香 (織機美術大学 准教授)

澤本 知浩 (株式会社沢本織物)

木塚 あゆみ (大阪芸術大学 准教授)

桂 浩之 (桂機業店)

Bine Roth (Royal College of Art, London, Tutor(Research)Textiles)

概要 スマートテキスタイルは、繊維にセンサー機能を搭載することで、身に着けるだけで心拍数計測やカロリー消費を計測できるなど、世界から注目されている繊維産業の新分野である。

本事業では、西陣織をサイエンスと融合させ、導電性のある素材(導電糸)などを使った「Electronic」と、IT技術などを使った「Intelligent」の2つの分野からアプローチしたテキスタイルを開発する。

また、ミラノユニカに出展し、ユーザーの要望や反応を探り今後の展開のきっかけとしていきたい。

WEB



インタビュー：森栄彰、上田香、木塚あゆみ、Bine Roth

聞き手：野田菜奈美

通訳：Selina Lin

どのようにしてこのメンバーでの プロジェクトが始まったのでしょうか？

上田：きっかけは、2017年から開催されているテキスタイルサマースクールというプログラムからです。

テキスタイルサマースクールとは、国内外のデザイナー、テキスタイルエンジニア、テキスタイルプロデューサー、材料科学者などが参加する、継続的なコラボレーションプロジェクトで、京都工芸繊維大学で教授をされていたJulia Cussim先生が設立されました。

2017年の最初は、海外の方を中心に京丹後の繊維産業を共に学んで新しいイノベーションを起こすという内容でした。

2020年はコロナ禍でしたが、大きな展覧会を実施し、2022年度は公益財団法人ポーラ美術振興財団の助成を受けて「日本式ジャカード織」と「e-テキスタイル」を軸に、マテリアルとしてのテキスタイルの新たな可能性を探ることを目的としたオンライン形式でのワークショップが開催されました。このプログラムに参加していた西陣の織元や、日本のテキスタイル研究者、学生、海外のリサーチャーのメンバーで今回のコラボレーションは始まっています。

この様な取り組みは海外から見ても 新しい取り組みですか？

Bine：珍しいプロジェクトだと思います。2022年は、オランダやイギリスの研究者も集まりました。スマートテキスタイルはかなりニッチでこの分野で働いている人は少ないため、日本の同業者と知り合い、日本の産業とそのものづくりについて知ることができたのは素晴らしい経験となりました。

今回初めてプロジェクトに参加しましたが、世界でのスマートテキスタイルの立ち位置や、日本やオランダなど、他国での動向を知ることができて本当によかったです。様々な働き方を見ることで日本の文化やテキスタイルを知るための素晴らしい出発点になりました。

日本の織りは他国と比べて どのような特性がありますか？

Bine：見学で織り機の仕組みを理解することができたのは実に貴重な機会でした。

日本特有の織り機の複雑さと仕組みを知ることがとても面白かったです。

日本の織物の特徴はまず、複雑な模様を織れるところで

す。仕上がりは刺繍に近いものに見えます。

織機の特徴は緯糸で、ヨーロッパの場合は緯糸が2つしかありませんが、日本の手織り機は、4つの緯糸があります。この4つの緯糸によってテキスタイルの構造をより自由に作ることができます。また、日本の織機は横幅が短く、上に高く作っていく特徴があり工場の天井が高いです。このことで、ヨーロッパより省スペースで制作することができます。ヨーロッパの織機は幅が広いので経糸の使い方も限られていますが、日本の織機は、幅が短いことを活かして複雑な織物を作ることを可能にしています。なので、3Dの構造を作る際の複雑な織により対応できるというメリットがあります。

森：そうですね。ヨーロッパの150cm幅の織物では糸を端から端まで飛ばすので、複雑なことをすると絡まってしまのですが、私どもの織物は105cm、70cmですので幅が狭い分、色んな工夫小回りも利きますし、重なり合っても織れます。幅が狭い上に絡んでも織れるということが複雑なものを織ることを可能にしています。ヨーロッパの織物は日本の機で大体織れるのですが、逆にこちらの織物を向こうの機では織れないことが多く、色んなものに対応できるような構造になっているというのが一番の特徴です。

日本ものづくりについて

Bine：アジアの他の国でも織物を見たことがありますが、特に日本は制作において完璧主義なところがあり、ものづくりへの意識が高いです。世界中で流行しているファストファッションにも左右されずに、ものづくりを大事にして伝統を守っていると感じました。

今回開発された2つのテキスタイルの 特徴を教えてください。

上田：Intelligentは、シミュレーションというデジタルの技術を使って3Dテキスタイルを制作しています。その生地を大人用のジャンプスーツに仕立てて、今回はミラノユニカに出展する予定です。

これまでは、八丁燃糸という着物で使われている強燃糸を使用していましたが、今回は100%ポリエステル製の強燃糸を使用することで、3Dで立体的でもありながらも軽やかな生地ができました。

また今回海外の展示会に出すということで、サステナブルな再生ポリエステルを使用しています。

再生ポリエステルを京都府織物・機械金属振興センターに送って、強撚糸を作ってもらいました。

森：おそらく世界初だと思います。(自称です笑)

木塚：Electronicについてですが、こちらは電気の通る糸を織り込むことによって、布に電気が通り、布をたたんだりひねったりすることで電気抵抗が変化する素材になります。つまり、導線やセンサーとして使用できる素材になるため、コンピューターと組み合わせて使用することで西陣織を触ったり動かししたりすると反応するデバイスが作れます。

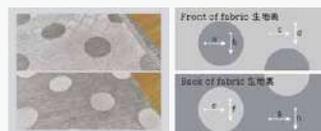
現在は医療用やスポーツ用のスマートテキスタイル開発が主流ですが、機能があるだけで電子部品の様な見た目がワクワクしない工業製品のものが多く、手芸用の素材として、何かを作ってみようと思える素材はまだほとんどありません。

今後ファッション系の人たちに使ってもらえるように、生地柄のデザイン性が高いスマートテキスタイルを作りました。

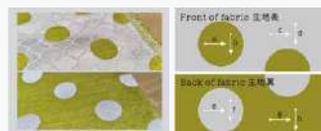
もりさんに織ってもらった生地は電気が通る素材を使用しているのですが、西陣織は元々、本金のスリットヤーンが使用されているものもあって、実はすでに電気が通る素材もあります。本金はお坊さんの袈裟や、掛け軸などに使用されており、値段も高く厳かな扱い方をされることが多いのですが、もっと若い人に気軽に使ってもらいたいということもあり、今回は比較的安価な海底ケーブル等にも使われている工業用の素材で、糸に加工する前のスリットヤーンを特別に分けていただいて作りました。本金で織るよりだいぶ安く、一般に使ってもらいやすい素材になるのでは無いかと思っています。



シルバー導電スリットヤーン



灰色導電糸

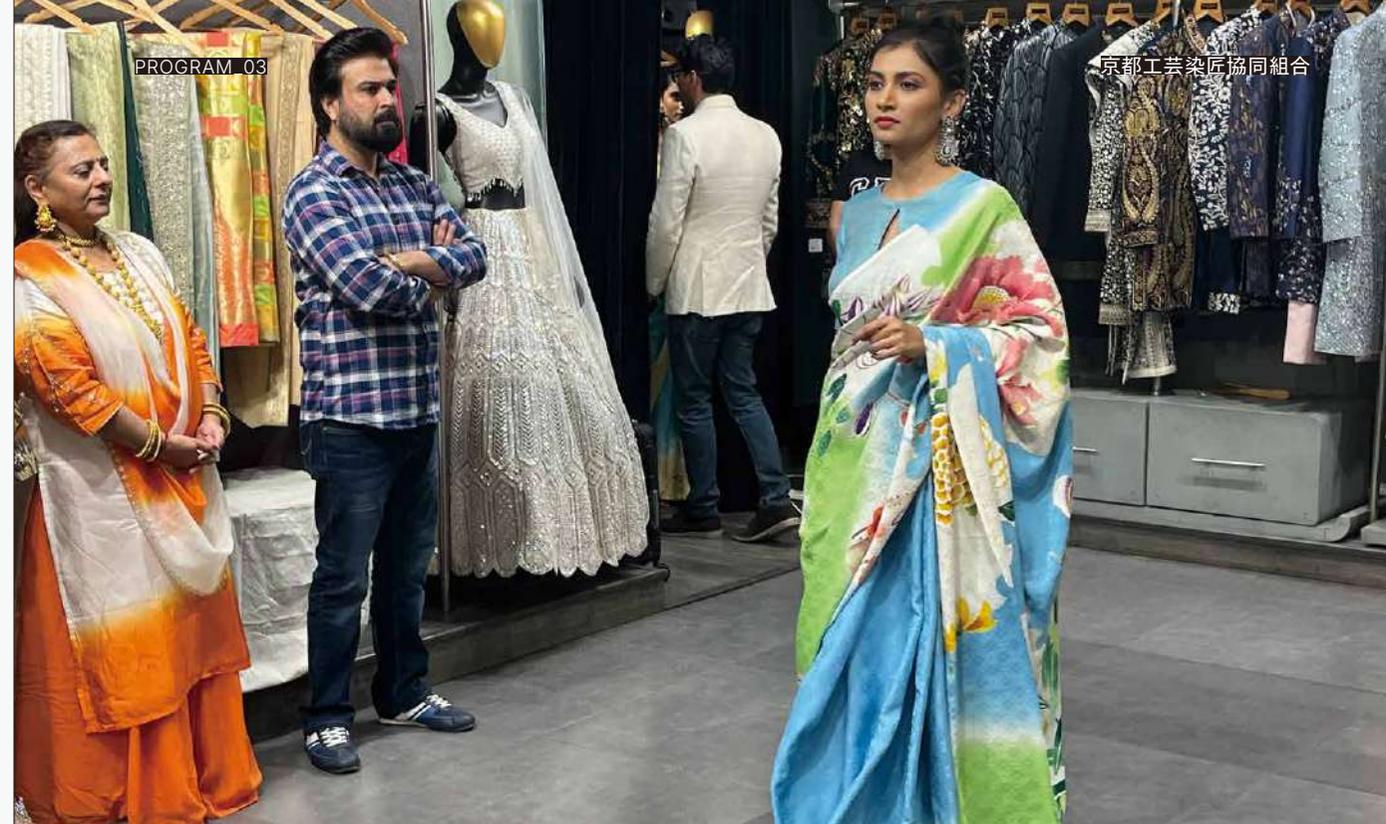


黄緑色導電糸

森：テキスタイルでこの様なことが起こっているということを僕も初めて知ったので、どんな形になるかわからなかったのですが、一緒に作ってみたいという思いでした。普段は袈裟や、お守りなど、非日常的な織物をメインに織っていますが、ここ最近ではもう少し日常的ながま口や御朱印帳なども作っています。今回のプロジェクトでは、上田先生のご指導のもと、機能が備わっている織物が織れることを教えていただいて、簡単にはいかなかったんですけども、西陣織がまた違う分野にも販路を開拓できるのではという可能性を感じて挑戦しました。

上田：もりさんは織機の台数も多く、臨機応変に新しいデータを作ってもらえることが他社ではなかなかできないことで、同じ京都で会社に見学に行きながら試行錯誤させていただけたことがとても有り難かったです。

森：ミラノウニカの展示会は、商社に間に入ってもらう出展しました。展示会ではファッション業界のハイブランドの方にアピールしたいと考えています。業界の方達はスマートテキスタイルを知らないことはないでしょうけれども、西陣織でスマートテキスタイルという新しい生地が作られていることに興味を持っていただけました。



海外市場を目指した新事業分野 「京友禅サリー」開発と販路開拓

京都工芸染匠協同組合

京都工芸染匠協同組合

理事長：竹鼻進

インタビュー：京都工芸染匠協同組合理事長 竹鼻進
聞き手：Selina Lin

概要 京手描友禅・工芸染匠は、多様で高度な技術技法を活かし、あらゆる消費者ニーズに対応出来る小ロットの商品生産、究極的には一点一作生産体制が強みです。本事業では、このように究極のオリジナル商品・1点1点のデザイン・意匠・色彩がすべて異なる商品を提供できる特徴を生かし、世界市場に向けた商品創りを提案し、日本の誇る手創りの技術・技法と、日本の和的デザインの新しい発展を目指しています。

— 京友禅サリー開発と販路開拓

サリーはインドの民族衣装であり、日本の民族衣装としての着物との接点を探るべく「京友禅サリー」を開発します。インドは経済大国としての可能性を大きく含んでおり、世界各国にインド文化を持つ人々が生活していることから、潜在的な市場は大規模です。京手描友禅の真価をインド社会に問いかけたいと考えます。





__インド出展への反応

昨年12月インドの都市、ニューデリー（13日～14日）とムンバイ（15～17日）で展示会を開催しました。一昨年に開催したインド南部の都市バンガロールでの展示会は、ホームパーティーのような雰囲気でしたが、今回はSNSを含め様々な媒体で広報してもらえたことで多くのお客様にお越しいただきました。

ニューデリーとムンバイはインドの大都市ですが、この「京友禅サリー」は最終的な価格がかなり高いものですから、富裕層の方にターゲットを絞ってお客様を募りました。

今回の展示会では、販売に繋がったこと以外に、とにかくお越しになったお客様たちにとっても評価をして頂けたことが印象的でした。ほんと「アメージング」の連発だったんです。前回回のバンガロールで学んだことで、あえてインドの方々に合わせた色や柄を採用するのではなく、あくまでも日本の着物のモチーフ

にしたサリーに置き換えて使ったというところがその評価に繋がったようでした。

__友禅サリーへの好奇心と感動

サリーはインドの民族衣装で古くから存在しています。そのほとんどが織物であることが多いんです。ただ、日本の友禅のように「描く」と「染める」という技術で模様を描くサリーはあまり無く、ろうけつ染めのバティックは若干ありますが数的には少ないです。京友禅サリーは絵画がサリーになったということで、インドの方々にとても新鮮さを感じて頂いたと思います。

会場では「本当に手で描いたんですか」「サリーを作るには何日かかるんですか？」という質問を何度も聞かれました。そんな風に友禅の技術に対して驚きと興味を強く持っていただけたという意味でも評価を得たと思います。また、1人の職人さんがすべての工程を作っていると思われることが多く、多くの職人さんたちの手



友禅サリーの海外向けPR動画



YouTube



によって着物ができる「分業」のことを説明すると、すごく驚かれています。

この京友禅サリーは少なくとも15人の職人が関わっています。それぞれに自分の知識と技術を注入していく、そんなアルチザンの集団がこのサリーを作ったということにとっても感動してくれていました。

__サリー離れの課題

日本の着物離れと同じですが、インドはサリー離れが進んでいます。そんな状況で京友禅サリーを展開していく上での一番のネックは価格です。この価格のコントロールができればこの京友禅サリーは売れるであろうという評価も多かったですね。まず日本とインドの人件費の差が課題です。価格を下げてチープな加工で作ることは、我々が本来このサリーをやり始めた頃のコンセプトとは全く違う方向になってしまいます。

__「出会い」が必要

今後の課題は京友禅サリーをターゲットに届けるために出会いを見つけることです。「私は何百枚もサリー持ってるし、100万円のサリーも持ってるけども、この京友禅のサリーは初めて見たので、ぜひとも欲しい」という方とのマッチングができるようにしていくしかありません。我々のスタンスとしては、もう少し価格を下げたような京友禅サリーを作る気持ちもあるんですが、若い染匠の方々がこれからの課題として取り組んで頂けたらと考えています。



日本の伝統文化と工芸を世界中に広め 職人の持続可能な海外展開をサポートする

LINKED ARTISAN ASSOCIATION

一般社団法人LINKED ARTISAN

共同代表：齋田隆朗 安井玲子

参加メンバー：涌波まどか(蘇隆窯) 堤卓也(堤浅吉漆店) 小笹正義(京料理 松正)

木村一智(島原 乙文)、眞鍋沙智(Morphosphere)、南條和哉(南條工房)、八田俊(昇苑くみひも)

サポートメンバー：齋田海音、田中みゆ、間瀬春日

概要 2024年1月にサンディエゴの各地で開催する京料理と日本の工芸文化を体験するイベントに向けて、2023年5月にロサンゼルスとサンディエゴでのネットワークづくりと、サポートをお願いする各所へ訪問し、打ち合わせを行った。

今回のイベントでは、2名の料理人と3名の伝統産業職人が渡米し、食事会や伝統工芸体験を実施したほか、日本からも複数の伝統産業職人がオンラインで金継ぎや手描友禅のワークショップに行った。

LINKED ARTISANについて

一般社団法人LINKED ARTISANは京都をはじめ、日本の伝統文化と工芸が持つ様々な魅力を世界中の多様な方々に伝える活動を行う非営利団体です。伝統を担う職人たちが世界中の様々な地域に赴き、自分たちの技術や感性を様々な分野を超えて伝え、現地の作り手や研究者たちと交流しコラボレーションできる環境づくりを行っています。また、様々な機関と連携して、子どもたちや学生に向け伝統工芸が持つ様々な魅力を体感できる教育プログラムや、工芸の原材料となる自然保護のためのリサーチプログラムを行っています。

WEB



Instagram



1	2
3	4
5	6
7	

5月の訪問先：

1. JAPAN HOUSE LOS ANGELES
2. Huntington Garden
3. ENTOTEN
4. MINGEI MUSEUM

1月に開催したイベントの様子：

5. 金継ぎワークショップ
6. 京友禅ワークショップ
7. 石工芸実演



1	2
3	4
5	6
7	

- 1月に開催したイベントの様子:
1. メンバーの技術を集めたBENTO BOX
 2. 食事会の様子
 3. 石灯籠ツアー
 4. 蘇峰寮のPOPUPを開催したPARU
 5. 石の盆栽鉢
 6. 飛かな実演
 7. 出汁テイasting



折灯華の次なるステージへ、 海外向けの新商品開発と販路開拓

ICW新表具開発グループ

安達表具店 南荘堂 代表：木南拓也
 (株)弘誠堂 代表：田中善茂
 夜天堂 代表：宮岸篤史

代表商品：settoka

概要 唐紙職人が伝統柄を施した和紙を用いて、骨格となるフレームを使わず、折り紙のように折って仕上げたランプシェード、折灯華をはじめとする現代のライフスタイルにフィットする新しい表具を開発、製造することによって新しい京表具の需要を発掘する。更に今年度は昨年開発した廃材等を使ったSDGs折灯華と共にヨーロッパでの可能性を探る。

目標

- ・ヨーロッパ好みの折灯華他新表具の新商品開発。
 - ・折灯華プロモーション用動画制作。
 - ・アートパネル等の商品紹介パンフと折灯華の紹介パンフをそれぞれ制作。(日本語版、英語版)
- ※アートパネル、アートサイドボードなどの専門家は前田均。
 折灯華は平瀬尋士を招いて進める。

WEB



Facebook



setto-ka

折灯華



"Digital technology
in a state-of-the-art origami design."

折灯華デザイナー 尾崎 誠
プロジェクトA 尾崎 誠 三谷 純 尾崎 誠
「最先鋭の折り紙設計のデジタル技術」



We have developed a lampshade
with an unprecedented modern design
perfectly suited to modern lifestyles.

現代のライフスタイルに合わせた
今までに無いモダンなデザインの「ランブシェード」に展開しました

海外出展

「京都市とドイツケルン市の友好都市60周年イベント」

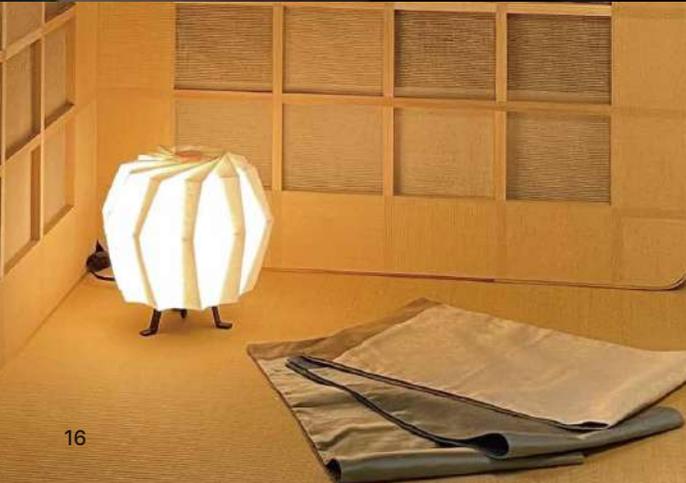
2023年11月3日～9日 ケルン（ドイツ）
出展内容：アートパネル、アートサイドボード家具、
ティープレート等
●成果及び成果目標に対する検証
「着物」の愛好家が多く、高額な着物でも売れる可能性がある。
今回の展示会ではボン在住の日本人のデストリビューターと
繋がりを持つことができた。その他、隣接する「ドイツ天理協
会」所有の「アートギャラリー」では日本の作家物や工芸品の
アンテナショップを開いており、今後の展開に期待ができる。

「MAISON & OBJET」

2024年1月18日～22日 パリ（フランス）
出展内容：アート屏風
●成果及び成果目標に対する検証
フランスを初めとする世界各国のバイヤーが多く訪れ、商品に
対して多くの方にPRできた。また、日本の工芸品に対する関心
が高いことが把握できたことで、今後の展開に期待ができる。

「maizon wa」

パリ（フランス）
出展内容：折灯華、他
●成果及び成果目標に対する検証
パリ市内（オペラ座付近）の日本の工芸品のアンテナショップ
「maizon wa」では、「折灯華」への関心度が高く、他に類を見
ないランブシェードに興味を持たれる方が多く、折灯華の海外
用オリジナル品制作依頼を受けることができた。また、今後も
継続販売していただけることとなった。





海外のレストランとコラボレーションした器の制作

TASTES OF KOGEI

代表：浅井忠博

メンバー：

清水宏章（株式会社キヨロク）

高島慎一（有限会社洸春陶苑）

高木竜太（岩華）

川崎基生（株式会社和楽）

清水大介（Kiyo to-bo株式会社）

涌波まどか（蘇隆窯）

岡山高大（陶仙窯）

竹村陽太郎（大日窯）

概要 伝統工芸品は寺社仏閣や料亭などに向けてオーダーメイドによって製作されてきた歴史を持ち、使い手と職人との密なコミュニケーションによってものがつくりが行われてきた。しかし昨今、工業製品や効率性を重視した既製品の台頭によって、手間と費用のかかるオーダーメイド文化は薄れつつある。一方、特に海外の飲食・宿泊事業者には、画一的でないストーリーを伴う製品を、サービスに活用することで、差別化を図りたいというニーズが生まれている。そのニーズの受け皿になることができる伝統産業事業者が、海外の飲食・宿泊事業者にリーチ出来ていないという課題があると考え、本事業を実施する。

__インタビュー：浅井 忠博 聞き手：事業コーディネーター

__プロジェクトの目的について

海外の飲食・宿泊事業者には、画一的でないストーリーを伴う製品をサービスに活用し差別化を図りたい、というニーズがあります。そんな需要に伝統産業事業者が対応できる仕組みを構築することが必要です。この事業の中で、伝統産業事業者が積極的に海外の飲食・宿泊事業者へPRや販売活動ができるような環境づくりを行い、伝統産業界全体を底上げしていけたらと考えています。

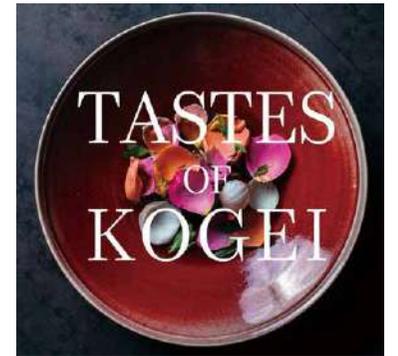
__プロジェクトの特徴について

本事業では、主に海外の飲食・宿泊事業者と京焼・清水焼の事業者をマッチングし、コラボレーションすることで、伝統産業の魅力を広く消費者に伝えることを目標にしています。伝統産業事業者は枠にとらわれずグループ構成することで、多様な商品構成を目指し、次年度以降、参画してくれる事業者を拡大していけたらと考えています。

今年度は主に、WEBサイトの構築、オンラインカタログの作成、海外の飲食・宿泊事業者向け窯元ツアーの造成及びプロモーション、シドニーでのプロモーションイベントを行ってきました。

__このプロジェクトが果たす役割について

海外で日本食レストランがブームであることは良く知られていますが、そこで使われる器への投資はまだ活発とは言えません。本事業では京都の伝統工芸品が海外の飲食・宿泊事業者で使用されることで、その認知度を向上させ、伝統工芸品への投資を促す効果を期待しています。



海外の飲食・宿泊事業者への食器の販売は大きなポテンシャルがあると考えているので、世界的に認知の広がる日本食文化と共に、食を彩る伝統工芸品を海外進出させることで、京焼・清水焼だけでなく漆器や茶道具類などにも拡大させていくことも計画しています。

__今後の動きについて

今後は本事業で製作するWEBサイトやオンラインカタログを作成する際の写真や動画をSNS投稿へ活用することで、フォロワーを増やしサービスの認知度を向上させていこうとしています。

オンラインカタログを活用し、海外の飲食・宿泊事業者への営業活動を継続して行う予定です。京都への来訪機会のある事業者に向けて、窯元を巡るツアーを行い、オンライン、オフライン両方での受注活動に繋げていきます。

また、本事業でPOPUP展示受注会を行ったシドニーだけでなく、今後世界各地で展示受注会を開催していきたいと考えています。日本文化への関心度が高く所得水準が高い欧米の都市部だけでなく、急速な経済発展を遂げるアジアの都市も視野に開催を計画していきたいです。



WEB



Instagram

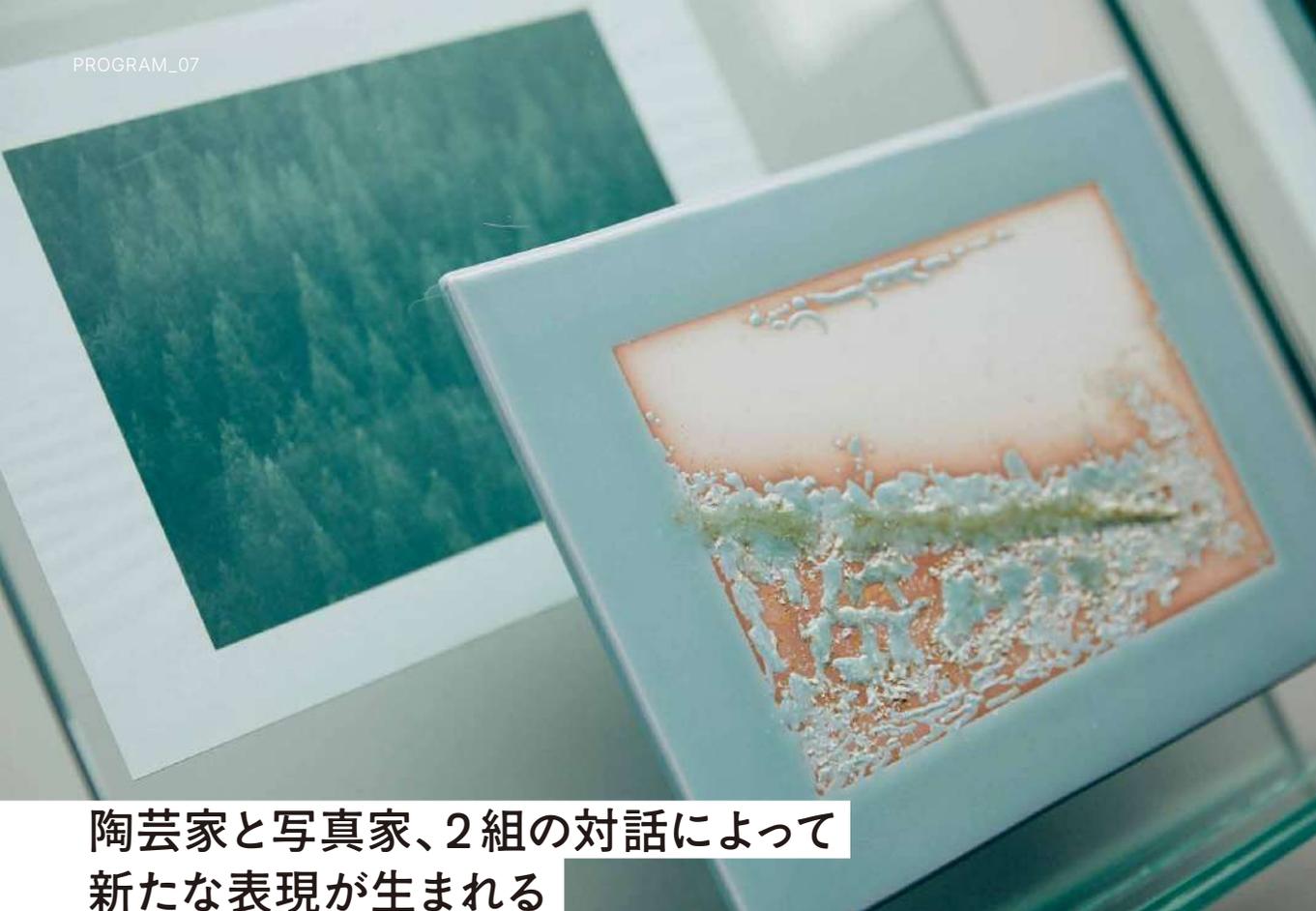


Facebook





New Approach



陶芸家と写真家、2組の対話によって 新たな表現が生まれる

蘇隆窯 × 町田益宏

蘇隆窯 涌波蘇隆、涌波まどか

撮影：町田益宏

デザイン：本田コウイチ

冊子編集：池尾優

翻訳：Selina Lin

什器制作：room、TANK

概要

4代目涌波蘇隆（京都／京焼・清水焼）と涌波まどか（福岡／小石原焼）の技術を融合した国内でも類を見ない新しい作風の器を作るブランドとして、2015年に立ち上げた蘇隆窯と、京都を中心に様々な伝統工芸のクリエイターと創作活動を行う写真家、町田益宏がコラボレーションし、陶磁器と写真を使った新たな商品の開発、ワークショップ、展示会等を通じて、新たなファンの獲得、伝統工芸の新たな感性の発掘につなげる。

_展示会開催

蘇隆窯 × 町田益宏展「Blue- 青の光の中で」

会期：2023年11月18日-26日

会場：蘇隆窯、山山

初日となる11月18日にはトークイベントを開催

_商品開発

陶板：町田氏が自然や都市の中から探し出した“Blue”をテーマとする写真を素焼きの陶板に貼り、そのまま釉薬を掛けて窯で焼成

盃／HAI：繊細に薄くひいた素焼きの器に、水を溜めるように釉薬を入れることで、中心部に向かってよりいっそう青色がより深まる

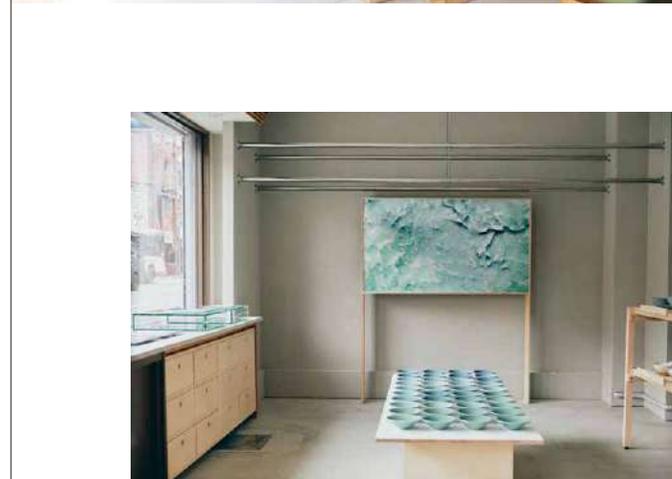
Incense Plate：素焼きのプレートに釉薬を盛るように置いて、そのまま焼成することで様々な表情を見せる釉薬溜まりが、まるで空のような表情を見せる

_写真

町田氏が撮影した街の中の“Blue”の写真から受けたインスピレーションで蘇隆窯が陶板を制作し、さらにそれを撮影

_冊子制作

蘇隆窯が追い求める“青”と“コラボレーション”がテーマの冊子を作成



会場：蘇隆窯

「掛け合わせには無限の力がある」

涌波 まどか

ここ数年で、その思いは確信へと変わりました。蘇隆窯として竹工芸、京組紐、漆芸、フランスの造形作家といった様々なジャンルの方とのコラボレーションに挑戦してきましたが、どれも初めての試みでありながら、常に柔軟な姿勢で臨むことができました。もともと私たち蘇隆窯は京都と福岡の伝統技術の融合から始まったので、コラボレーションへのハードルが低いのかもかもしれません。京都と福岡のハイブリッドに、さらに異なる素材が加わることで化学変化が起きる。それが伝統工芸としての、また京焼・清水焼としての広がりになっています。

また、銀座「FARO」の能田耕太郎シェフや京都「祇園さゝ木」の店主・佐々木浩さんのような使い手の言葉からヒントを得て、新たな答えに辿りつく、という制作もある種のコラボレーションです。こうした試行錯誤の時間は、かけがえのない経験と技術の蓄積を私達にもたねてくれます。今回の写真家・町田益宏さんとの共同制作では、対話から生まれる可能性を、お互いに時間をかけて探りました。異なる分野ですので、まずは相手を知り、理解することから始めました。

お互いの工房でワークショップを行ったり、蘇隆窯の目指す青についてそれぞれの目線で捉え、新たな手法で表現したり……。答えらしきものを探り当てようと、数ヶ月に渡って対話を重ねに重ねました。結果、生まれた表現や作品は、どれも蘇隆窯単独では辿り着けなかったものばかりです。掛け合わせがもたらす魅力を改めて感じています。



会場：山山



環境を取り込む音のインテリア Synclee (シンクリー)。

LLB (Laatry × LinNe × Bench Work Tatenui)

プロジェクトメンバー

武田真彦 (Laatry)

江島和臣 (Laatry)

南條和哉 (LinNe / 南條工房)

南條由希子 (LinNe / 南條工房)

日野健 (Bench Work Tatenui)

堤卓也 (堤浅吉漆店)

商品情報

名前: Synclee

価格: 500,000円 (2024年2月現在、時期により変動)

海外販売対応: 今後対応予定

「おりん」を使用したサウンドインスタレーション作品「CYCLEE」を、リラクゼーションや日常生活に取り入れたいという声に応えるため誕生した「Synclee」。木の温もりが感じられるボディには、京指物の技術が使用され、あらゆる空間に馴染むよう設計。

プロセス

2023年

6月: 細部調整

7月~8月: 販売体制構築

9月~12月: プロモーション

第2期プロダクト受注会

2024年

1月: ラグジュアリーラインの意匠

製造の検証フェーズ

受注件数

10件

今後の目標

海外への販売体制構築とPR

概要 環境を取り込む音のインテリア「Synclee (シンクリー)」は、昨年プロトタイプとして完成した。今年度は、本格的な製品化と販売に向けて製品細部の調整とデザイン・販売体制の構築を行い、国内外に向けてプロモーションを行う。

WEB



インタビュー: 武田真彦 聞き手: 事業コーディネーター

LLBとは

伝統を受け継ぐプロダクトとして、京都の伝統技術とサウンドアートを掛け合わせた、新しい伝統の継承とライフスタイルを提案するコラボレーショングループです。アート作品を中心に制作を行うメディアラボ Laatry、おりんを製作する南條工房が手掛けるブランド LinNe、京指物の技術で木製家具の製作を行う Bench Work Tatenui の3社が協働し制作しています。今回は、漆を施したバージョンも制作するため、堤浅吉漆店もチームに加わりました。

Syncleeができるまで

Synclee が生まれたきっかけは、Laatry と LinNe のコラボレーションから生まれたサウンドインスタレーション作品「CYCLEE」でした。これはレコードのターンテーブル



CYCLEE

展覧会詳細

Synclee Exhibition & 2nd Order Meeting



KYOTO

会場: kumagusuku

会期: 2023年11月16日(木) ~ 19日(日)

を使用したものとなり、1点もののアート作品として制作しました。

今回のプロジェクトでは、その「CYCLEE」をリラクゼーションや日常生活に取り入れたいという声に応えるため、より生活に溶け込むプロダクトを作ることになりました。レコードのターンテーブル部分をシンプルな回転台にし、Bench Work Tatenui による京指物の技術によって、木の温もりが感じられるボディに作り変える開発を行うことで、あらゆる空間に馴染む「Syncree」が誕生しました。何気ない日常の時間と空間を調和し、心地よいゆらぎを生み出す音のインテリアです。

LLBの特徴について

LLBのメンバーは「伝統技術」を用いて、「工芸品」を作っているわけではありません。南條工房はおりんの製作技術を使って「音色」をプロダクト化し、Bench Work Tatenui は京指物の木工加工技術を用いて「人が関わる場や空間」を作っています。また、Laatry は「伝えること、調和すること」をコンセプトにクリエイティブな実験を行っているメディアラボです。三者三様、工芸に関わりながらも、目指すところはそれぞれにあり、この様な掛け合わせから、新しい伝統の継承とライフスタイルは生まれると考えています。



TOKYO

会場: SHUTL

会期: 2023年11月23日(木・祝) ~ 11月26日(日)



金継ぎから本格的な漆芸道具・材料のショップをオープンさせ京都の工芸を繋ぐ場所を作る

Beyond Tradition

代表：堤卓也（堤浅吉漆店）

什器制作：HITTITE

ショップオープン：2024年4月20日

概要 堤浅吉漆店では、「& Nature」を掲げ、自然と人々の暮らしを繋げる拠点として新たにショップ「und.」をオープンさせる。そこでは専門家のための漆芸道具・材料の販売から、金継ぎやふき漆の体験キットなど漆を身近に感じてもらうための商品販売や、漆のサーフボードの受注が可能な工房、漆芸を中心とした京都の工芸を繋ぐためのコンシェルジュ機能を設けて、工芸を全身で体感できる企画を実施していく。また、オープン時には写真家の大杉隼平氏が撮影した全国の工芸や食の作り手たちの写真展を開催し、これまで漆や工芸に触れてこなかった人たちが観光で訪れた方々に工芸を中心とした京都のものづくりの面白さをPRしていく。

1	2
3	4
5	6

1.サーフボードを漆塗装する工房
2.ショップ外観
3-6.リニューアルに伴って、壁面の漆喰作業や、床の漆塗装をこれまで堤浅吉漆店に関わってくれた方や、これから関わって欲しい方など、多くの方に手伝ってもらった。こうした作業の中で、漆をはじめとする工芸素材に親しみを感じてもらえ、自分たちの生活の中でも取り入れるきっかけになればと考えている。

WEB



Instagram





西陣織の高い技術を活かし、 新市場開拓を図る。

西陣織工業組合

西陣織工業組合

理事長：舞鶴一雄

西陣織会館館長：大槻ゆづる

概要 西陣織の魅力創出・発信の可能性を模索するため、

1. 西陣織産地への新たなアイデアの集積
2. 企業や他分野連携による新商品の開発及び販路開拓
3. 西陣織生地を活用したプロトタイプ商品の制作・販売の3本を柱とした、「西陣織・新市場開拓事業」を展開する。

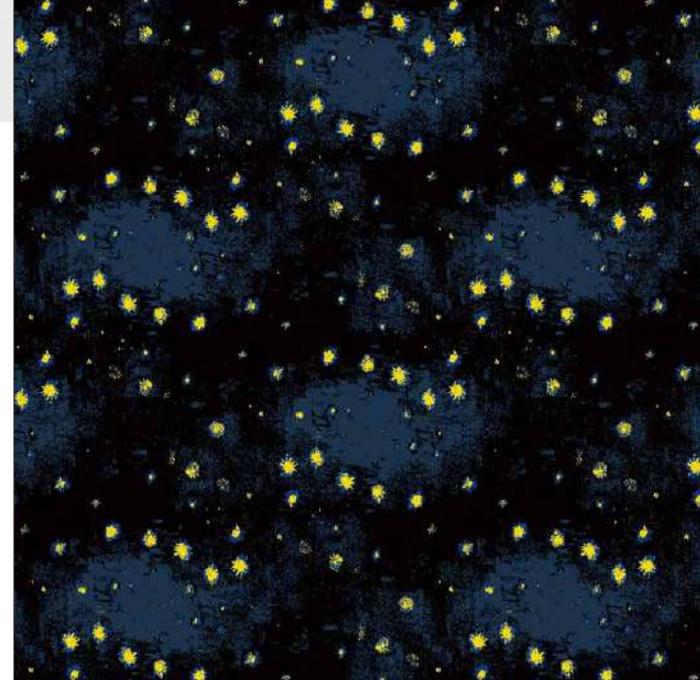
目的

需要が落ち込む西陣織産地全体の活性化に繋げるため、西陣織を活用した商品開発を促進する必要があり、さらには材料・原料としての西陣織を提供する体制の構築が求められている。

昨年度実施した「西陣 design グランプリ」では多くの応募があったことに加え、受賞された個人・企業等との関係がその後も続くなど、西陣織を活用した新たな試みとして、一定の成果があったものと考えている。魅力創出・発信の可能性を模索する取組を継続していくことで、これまでの西陣織産地にはなかったアイデア等を集積する。また、それらを商品化することで、より多くの人を消費者ではなく“つくり手”として巻き込むことで、持続可能な産地づくりを目指す。



西陣織大会での展示の様子



1	2
3	4

1・2. ファッション関連の専門学校生による、新たな西陣織活用のアイデア募集

参加学生数：144名 応募作品数：188作品

ニッセンのサステナブルブランド「RiFUKURU」にて商品化された受賞作販売中

3. フランスのアート作品をモチーフとした新商品開発及びC to C市場での西陣織生地・商品等の販売 本織物によるデザイン試作「星降る夜」

4. 西陣織生地を活用したプロトタイプ商品の制作・販売

制作数：150点（スマホケース、ショルダーバック、トートバック各50点ずつ）

販売先：アトリエジャパン、西陣織会館2階、ジャパンシルクセンター

WEB



Facebook





京友禅を使ったドール用衣装の開発と 伝統工芸技術の他文化への発信

soin

友禅：関 純子
糊置：吉田 麗
仕立て：燈織屋



染めに必要な絹糸、筆をモチーフに取り入れて
柔らかい印象のロゴにリニューアル。

概要 和装業界は以前より厳しい状況ではあったが、ここ数年更に厳しいものとなった。友禅染めの技法をどう残すか、何に使用するかを考えた結果、ドールサイズの着物、ドレスの制作をお託えとして制作、販売していくこととした。絹のデメリットである洗いにくさ、水に濡れると縮むなどがドールならば問題が無く、コレクター向けに需要もある。お託えで人形と同じものを着たいという方の需要に応えていきたい。



今年度の取り組み

- ・ドール用の浴衣、着物、ワンピースの制作
- ・ブランドロゴ、WEBサイト制作
- ・広報用ドールライセンス交渉

今後の展開

展示会に出展し、受注を取るとともに、お客様の反応を見ながら今後の展開に繋げていく。展示会以降、SNSやWEBサイトの運営を通じて認知度をあげていくための発信を行っていく。3Dプリンタを使用し、服に合わせたドール小物の制作や、ドールと同じ着物を着たいという方向けに等身大の着物のお託えも増やせるようPRしていく。



1	2
3	4
5	6

1. 着物：手描き友禅染
2. ドレス：手描き友禅染
- 3,4. 浴衣：雪花絞り
5. 雪花絞り工程
6. 和裁工程



女性絵付け師への安定した仕事を生み出すための 新たな京都スーベニアの開発

チーム・ギギガガ

代表：光武みゆき（めおと屋）
商品企画・デザイン：MONDO
サンプル生地制作：洸春陶苑

概要 課題

- ・毎年、絵付けを学ぶ多くの学生が卒業するが就職先がほとんどない
- ・出産や子育てで一度仕事を離れたら、復帰するのが難しい現状がある
- ・めおと屋は、そんな女性職人の仕事を作るために生み出したブランド
- ・めおと屋の商品の購入層は50代以上

計画

- ・女性職人に更なる安定した仕事を生み出していくために、若年層から40代の女性をターゲットにした新たなスーベニア商品を開発する
- ・絵付けの書き込みをシンプルにして、価格を抑え、ギフト展開が可能な商品ライン
- ・ロゴ、パッケージ、メインビジュアルをトータルでデザイン
- ・リピーター獲得のためにファン心理をくすぐる商品を計画
- ・現代版鳥獣戯画として、アーバンスポーツや現代のライフスタイルを取り入れたうさぎとカエルのキャラクターを開発

商品開発に向けた思い

光武 みゆき

京焼清水焼の業界に携わり24年が経ち、様々な方々に成長させてもらい今に至ります。伝統工芸の軸をしっかりと持った上で、領域を超えたブランディングによってより幅広い年齢の客層の新しいニーズを生みたいと思います。もうひとつ、自分の職人として女性としての経験から、携わる方々の生活環境に合わせた仕事場を作ることが、これから必要なひとつの後継者育成の形だと考えています。新しいブランド構築により、新しいニーズと繋がり安定した仕事の供給を目指したいと考えます。



デザイナーの思い

MONDO

ロゴに関して

ブランドの顔となるロゴでは、従来の鳥獣戯画から連想される和の伝統的なデザインではなく、軽やかでファッショナブルなグラフィックにすることによってギギガガのコンセプトである「現代を生きる鳥獣戯画」の遊び心やカルチャー性を表現しています。また、手描き調のデザインからはブランド背景にある若い絵付け師さんたちの存在、物語を感じられるようにしています。

プロダクトに関して

主役のギギガガのキャラクターたちをいきいきと引き立てる、シンプルながら現代的なデザインを指針に。そして器としても使い勝手の良い、日常の食卓に馴染むプロダクトを目指しています。

WEB





雑貨小売店で取り扱える 新しい「京菓子」開発

雑貨小売店業界へ進出する京のお菓子開発チーム

企画・販売：株式会社青木光悦堂
 製造：今西製菓株式会社
 加工：一般社団法人実のなる樹
 パッケージデザイン：株式会社 2時

概要 「小中学生でも購入できる、低単価のお菓子」という雑貨小売店のニーズに合わせ、日持ちする低単価のお菓子を2種開発し、雑貨小売店市場という新規販路の開拓を目指す。展示会への出展を通して、「京都発」のお菓子を全国へ届けていく。



第97回 東京国際ギフト・ショー 春2024 出展の様子

展示会出展

2024年2月6日～8日
 第97回 東京国際ギフト・ショー 春2024
 2024年3月6日～7日
 第5回 京都国際ギフト・ショー 2024

今後の展開

海外バイヤー・小売店と接点を持ち海外へも販路を広げる。

展示会での反応

ハムスターモナカ

- ・「2個入りを待っていた。」という声が多かった。
- ・チョコ味は待望の声を多く聞くことができた。
- ・味に対しても「お菓子屋さんが本気で作っていることがわかる。甘すぎず食べやすい。」と好評。

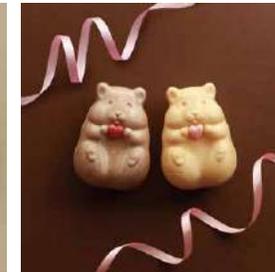
アメイロ喫茶

- ・数種の味を同時に食べることで1つの味が完成するアイデアが新しいと好評。
- ・食べた後の缶が使い、パッケージを飾ることもできて良い。
- ・買いやすい価格で人にあげるのにもとても良いので、売れそう。

「ハムスターモナカ」2個入り



紅白



チョコ

これまで、6個入(2,000円 税込)で展開していた商品は、小中学生には高く、購入に繋がりにくい価格だったため、2個入り(860円 税込)で買いやすい価格の商品を開発。
 お正月限定の紅白(つぶ餡)や、バレンタイン・ホワイトデー向けにチョコ餡など、バリエーションを展開している。

「アメイロ喫茶」



ミルク味とコーヒー味のキャンディを一緒に食べてカフェラテ風など、異なる2~3種類のフレーバーのキャンディを組み合わせると喫茶店のカフェメニューを再現できる珈琲キャンディ。かわいいコーヒーカップ型のパッケージ。手土産、プチギフトにぴったりなキャンディー。(500円 税込)



1. キャラメルラテ味
2. ヘーゼルナッツラテ味
3. カフェモカ味
4. 抹茶ラテ味
5. ほうじ茶ラテ味



女性職人グループが創る グローバル感覚のネオ京友禅ファッション

KYOYUZEN COUTURE

企画・デザイン・悉皆・引き染め：藤本 昌代(京友禅 喜々~KIKI~)
 悉皆・デザイン・友禅：天野 まゆこ(きもの まゆ)
 下絵・デザイン：亀島 祐未
 クリエイティブディレクター：ワタナベカツア

概要 厳しい状況の和装業界において、京友禅の女性職人の繊細な技術を生かした高品質な製品を、新しいオートクチュールファッションとして世界に展開するビジネスモデルを生み出す。
 ニューヨーク在住のクリエイティブディレクター ワタナベカツア氏のプロデュースを受け、ニューヨーク×京都の異なる文化やスタイルを組み合わせた新しいデザインを考案し、発信していく。



NYのワタナベカツアさんとのZoomミーティング

今後の目標

- ・NYの富裕層に向けてオートクチュールとして発表
- ・高い技術が詰まった希少価値のある洋服としてブランディングしていき雑誌等のメディアで取り上げてもらえるようにしていく
- ・いずれは、カーテン、壁紙、布団などのインテリアにも展開していきたい

今年度の取り組み

2023年
 7月 ドリームボード作成
 8月~12月 デザイン作成
 2024年
 1月~3月 友禅・ボディ作成
 4月頃 リリース予定

Instagram



「花鳥更紗柄コート」



デザイン画



トワールチェック

洋柄と古典柄の融合。
 藍色と白でシンプル綺麗な仕上げ。

チームメンバー
 天野まゆこ(デザイン)
 亀島祐未(下絵・デザイン)
 関純子(挿し友禅)
 藤本寧々(引き染め)
 藤本昌代(企画デザイン)
 吉田麗(糊置)

「Cache cache(カシュカシュ)」



デザイン画



デザイン画

Cache cacheはフランス語で「かくれんぼ」という意味。その名の通り、衿裏や腕を紗合わせにすることで、かくれた部分に友禅を施したさりげないオシャレコート。

チームメンバー
 亀島祐未(下絵・デザイン)
 寺坂ひとみ(デザイン・友禅・ろうけつ染め・引き染め)
 永澤翔子(下絵・デザイン・挿し友禅)
 中原美早子(糊糸目・伏せ糊)
 藤本寧々(引き染め)
 藤本昌代(企画デザイン)



和装小物のインバウンド需要を想定した オンラインと実店舗の連動による新たな販路開拓施策

京きもの生地愛好会

川瀬 定男	和装小物製造
岩谷 瑛司	ECサイトコンサルティング、商品プロデュース
森谷 富士雄	カメラマン

概要 和文化を次世代へ繋げるため、インバウンド需要を取り込み、和装小物の販路拡大を目指す取り組みとして、SNSの活用、新規マーケットの開拓、新商品の開発、広報展開として動画や海外向けのホームページの作成を行なった。



01 SNS・インスタ運用

Instagram運営とデザインテンプレート作成による情報発信

タイムライン	2023年9月～2024年3月以降継続
アクション	Instagram (kimonokawasumi) 随時更新中。
ゴール & ヴィジョン	フォロワー数 500名 

02 チラシ作成

インバウンド需要に向けた外国語のチラシ作成と頒布 (QRコードを付与)

タイムライン	2023年11月～2024年1月
アクション	ロゴ作成中。 その後チラシ制作に入る。 オンラインで販売中。 minne「きもの川澄」 
ゴール & ヴィジョン	CVR 5%

03 レンタルボックス型ショップでの販売

レンタルボックス型のショップ (3カ所設置) による販路開拓

タイムライン	2023年9月～2024年3月以降継続
アクション	2023年9月～ 京都伝統産業ミュージアムショップにて販売 梅宮神社近隣の店舗にて販売 その他、小売店や喫茶店にて販売。
ゴール & ヴィジョン	販売先の増加。売上 30 個/月

04 インバウンド需要に応える新商品の開発

着物生地を活用し、一般的な袋物や、御朱印帳入れ、パスポートケースなどを開発。
英語・中国語などの表記タグも作り、店舗やオンラインショップで訴求できるようにする。

タイムライン	2023年9月～2024年3月以降継続
アクション	バッグ、財布、小物入れ、ご朱印帳入れ、パスポートケース等を開発
ゴール & ヴィジョン	商品ラインナップの増加。 売上 10 個/月

05 商品PR動画の製作

英語や外国語の翻訳をつけ、海外向けのコンテンツ内容を企画し撮影・編集、InstagramやYouTube、オンラインショップ等で配信する。

タイムライン	2023年9月～2024年12月
アクション	YouTubeにて放映 きもの川澄 その他、別動画を制作中 
ゴール & ヴィジョン	動画再生数 5,000 回以上

06 海外向けホームページ作成

越境EC機能、翻訳機能、商品画像・動画掲載、問い合わせ機能を設ける。

タイムライン	2023年9月～2024年12月 
アクション	・英語版Webサイト ・Instagram (kimonokawasumi) 英語版は現在作成中 (翻訳依頼中)。 2月前後に披露予定 ・その他、海外向けオンラインサイト制作中。
ゴール & ヴィジョン	サイト訪問数 10,000 人/月



「京房ひもを使った勝利の記念品」の 販路拡大を強化

「勝ち叶う結びの房」製造チーム

- 平岡旗製造株式会社 (国旗・校旗・会旗・その他の染め製品の製造販売)
- 斎永株式会社 (紐製造)
- 株式会社全進堂 (写真台紙・アルバム・ラミネートフィルム・フォトフレーム製)

概要 優勝旗や校旗に使用される京房ひもを改良し、「京房ひもを使った勝利の記念品」を開発。昨年度の国際見本市(ギフト・ショー)出展を通じて得られた多くのオファーやヒントを元に商品の改良を進め、クラウドファンディングやECサイト、さらなる国際見本市への出展を通じて、新たな販路開拓を目指す。

平岡旗製造が中心となり、京房ひもを使用した商品開発を実施。房ひもの製造は斎永(株)が担当し、フレーム製作は(株)全進堂が実施する。平岡旗製造は優勝旗や校旗、染め旗等を手掛ける製造会社で、西陣織や京友禅、京繻、京房ひも等、多くの伝統産業を取り入れた旗の製造を行っている。夏の甲子園の深紅の大優勝旗を納めている。

“京房ひもを使った勝利の記念品”の開発商品

“勝利”にこだわった記念品というコンセプトで商品開発を開始し、その際重視したのが下記の3点。

- ・旗に使う技術を進化させたものであること
- ・「勝利」を実感できること、さらに自分の手を加えることでより実感できること
- ・「京都」らしいもの

上記3点を満たすものとして「京房ひもを使った勝利の記念品」を開発し、国際見本市で発表する。その場の意見を受けて商品の改良や販路開拓を強化する。また、クラウドファンディングも実施する。



1. 勝ち叶う結び
額に入れて商品化も予定



2. 勝ち叶える結び
身に付ける房ひも(ミサンガ、お守りのような商品)

01 新商品発表サイト クラウドファンディングの活用

タイムライン	2024年4月～6月
アクション	MAKUAKEにて発表・販売 2023年11月～申請、サイト作成等 2024年4月 ページオープン予定 (クラウドファンディング)
ゴール & ヴィジョン	売上目標 500,000円

02 ECサイトの作成・販売

タイムライン	未着手
アクション	2023年11月～ MAKUAKE ページ作成中 2024年春以降 取引企業のECサイト作成予定
ゴール & ヴィジョン	売上目標 600,000円

03 国際見本市での発表

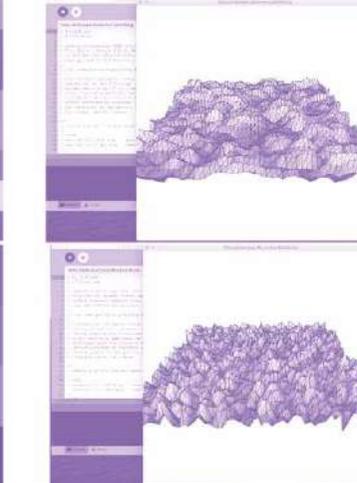
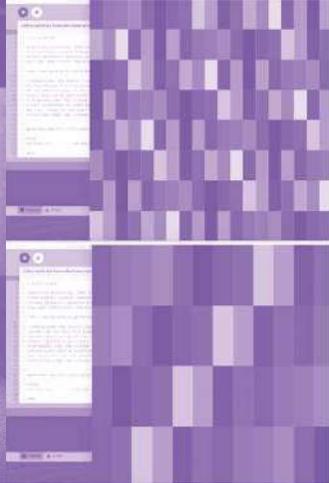
タイムライン	2024年4月～6月
アクション	2024年3月 第5回京都インターナショナル・ ギフト・ショー2024 商品発表
ゴール & ヴィジョン	売上目標5,000,000円 新規顧客の獲得を目指す。 (参考) 昨年度発表した商品類の 問合せ内容に対し、受注するため 営業進行中。

04 営業支援サービス

タイムライン	2024年3月～2025年3月
アクション	2023年秋～ 協力会社と折衝中
ゴール & ヴィジョン	売上目標5,400,000円 全国のハウスメーカー、監査法人、 塾等へ営業を実施。

WEB





SUSTAINABLE FUTURE CRAFTS
Document Book 2023

グラフィックデザイン：本田コウイチ

企画・編集：SUSTAINABLE FUTURE CRAFTS

発行：京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

運営事務局：京都伝統産業ミュージアム

コーディネーター：吉澤寿陽 山崎伸吾 野田菜奈美 Selina Lin 足立憲久

<https://kmtc.jp/sfc>



令和6年3月発行
京都市印刷物第053172号

